

常陸の國の住人中宮三郎同國の住人關の次郎村山黨には山口の六郎仙波の七郎轡を雙べて懸入れば○下略

〔源平盛衰記 三十七〕平家開城戸口并源平侍合戰事

信濃國住人村上次郎判官代基國ト名乗リテ一時戰テ出ヅ此等ヲ始トシテ○中略吉田黨ニハ小

澤横山兒玉黨猪俣野與山口ノ者共○中略入替々々劣ラジ負ジト戰ケレ共○下略

〔承久軍物語 二〕上皇○後鳥羽胤義をめされて當時鎌倉中に義時と一味すべきものたしかにいかほ

どあらんとか思ふと御尋ありければ○中略こ玉黨に庄の四郎兵衛と申もの同じく御まへに候けるが○下略

〔太平記 三〕笠置軍事附陶山小見山夜討事

入江蒲原ノ一族横山猪俣ノ兩黨此外武藏相模伊豆駿河上野五箇國ノ軍勢都合二十萬七千六

百餘騎九月○元弘廿日鎌倉ヲ立テ○下略

〔太平記 十〕長崎次郎高重最後合戰事

長崎モヨキ敵ナラバ組ン小懸合テ是ヲ見ルニ横山太郎重眞也サテハアラヌ敵ゾト思ケレバ

重眞ヲ弓手ニ相受ケ甲ノ鉢ヲ菱縫ノ板マデ破著タリケレバ重眞二ツニ成テ失ニケリ○中略同

國○武藏ノ住人庄三郎爲久是ヲ見テヨキ敵也ト思ケレバ續テ是ニ組ントス大手ヲハタゲテ馳

懸ル長崎遙ニ見テカラノ打笑テ黨ノ者共ニ組ムベクハ横山ヲモ何カハ嫌フベキ合ハヌ敵

ヲ失フサマイデ己ニ知セントテ○下略

〔太平記 十四〕節度使下向事

左馬頭直義朝臣不斜喜テ懸テ鎌倉ヲ打立テ夜ヲ日ニ繼テ被急ケリ相隨フ人々ニハ○中略武藏

七黨ヲ始トシテ其勢二十萬七千餘騎十一月○建武廿日鎌倉ヲ打立テ同二十四日三河國矢矯